

キャラクター名  
常慶 レナ(じょうけい)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー サラマンダー	ワークス	高校生	カヴァー	
オプション		年齢	17歳	性別	女性
覚醒	死	衝動	殺戮	初期侵食率	61%
出自	天涯孤独	経験	記憶喪失	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	4r+3	0	[消費したHP]+8		変更先
赫き剣+鮮血の一撃+渴きの主	白兵	9r+3	@8	[消費したHP]+2410		装甲無視、HP+12回復。HP-2
赫き剣+鮮血の一撃+渴きの主(侵蝕率60%以上)	白兵	10r+3	@8	[消費したHP]+2410		装甲無視、HP+12回復。HP-2
赫き剣+鮮血の一撃+渴きの主(侵蝕率80%以上)	白兵	11r+3	@8	[消費したHP]+2410		装甲無視、HP+12回復。HP-2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費
対抗種(カウソターレネグイド)	P	N		
お兄ちゃん(常慶 シンジ)	P 尊敬	N 不安		
竜崎 翼	P 友情	N 劣等感		
金屋 鋼介	P 信頼	N 不安		
ガールハイト・ヴァナディア・フォン・ドラク	P 同情	N 憤懣		
伯楽星	P 好奇心	N 不安		
番匠 佳南子	P 好奇心	N 脅威		

最大財産P: 6    残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
先陣の火	3	2	セットアップ	至近	至近	自動	-	
効果:	ラウンドの間【行動値】+[LV×5]、シーン1回							
赫き剣	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	使用時[LV×2]以下の任意のHP消費。素手データ変更							
コンセントレイト:ブラム=ストーカー	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	C値-LV.(下限7)							
鮮血の一撃	4	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	白兵のダイスを+[LV+1]個。2点のHP消費							
渴きの主	3	4	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果:	白兵攻撃装甲無視、HPを[LV×4]点回復。							
血の宴	3	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果:	対象を範囲(選択)に変更。1シナリオにLV回まで							
日常の代行者	★	-	常時	効果参照	効果参照	自動	-	
効果:	身代わり							
凍結保存	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	永遠の付与							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

赤ん坊の頃に孤児院に置き去りにされ、そこで育つ。  
G市公立高校に通うツンデレ女子高生。  
常慶シンジと竜崎翼とは同じ孤児院の家族であり友人である。  
家族を心から愛している。

孤児院に置き去りにされた赤ん坊は、実はひとりではなくふたりだった。  
一卵性双生児のレナとラナ。  
彼女たちは幼い頃に誘拐され、人身売買の果てに裏ビデオの被写体としていられること(含み)を強要され、最後に互いが互いを殺害するよう撮影者から命じられた。  
どちらかさえ殺せば片方は生かしてやるという条件だったが、ラナはそれを拒否したため手酷い虐待を受ける。  
"さいこのチャンス"としてもう一度尋ねられ、その際レナが震えるラナに自分を殺すよう涙を堪え引きつりながらも必死に笑顔を作り願った。  
憔悴仕切ったラナはあまりの恐怖と、この状況から脱せるかもしれないという欲望からレナを殺してしまう。  
撮影者はそれをひとしきり喜び、口約束など無効だとラナを使い棄てようとするが、幸か不幸かFHの戦闘に巻き込まれて命辛々そのすべての状況から逃げ出すことに成功 自力で孤児院へ戻る。  
この一連の事件によりラナは記憶障害を起こす。  
自身がラナではなくレナだということ、双子などではなかったということ、過去にそんなことは体験していないことの記憶を書き換えた。  
当然孤児院のシスターなどから話を訊かれたが、その調子のため傷跡が深いのだと触れられずにこれまできた。  
レナの最期の一言、"わたしのぶんまで生きて"ーラナはその言葉により"レナ"として生きることにしたのだった。

クリアシナリオ  
Family bonds